

PROGRAM

VR体験コーナーも!

13:00

開会

主催者挨拶

阿蘇世界文化遺産登録推進協議会会長 木村 敬
熊本県知事



13:10

基調講演 I

『わがこころの阿蘇～ハナシノブ咲くふるさと』

フリーアナウンサー 武田 真一 氏

1967年熊本市生まれで、熊本高校出身。実家は熊本県阿蘇郡。90年、アナウンサーとしてNHKに入局。熊本局を振り出しに、東京アナウンス室時代は「正午のニュース」や「ニュース7」などを担当。国内外のニュースを全国に伝えた。2016年の熊本地震報道に携わり、同年の紅白歌合戦で総合司会を務めた。21年から約2年間は大阪局に勤務した。23年にフリーアナウンサーに転じ、同年4月から日本テレビ系の朝の情報番組「DayDay」のMCを務めている。



13:35

基調講演 II

『阿蘇の世界文化遺産としての価値とは何か』

筑波大学名誉教授
静岡県富士山世界遺産センター館長 稲葉 信子 氏



14:15

阿蘇世界文化遺産登録推進応援セッション

木村知事が武田真一氏に阿蘇世界文化遺産登録応援大使の委嘱状を交付するなど、シンポジウム参加者が一体となって阿蘇の世界文化遺産登録への機運を高めます。

阿蘇草原再生千年委員会委員長 坂本 正 氏

スペシャルMC

熊本県住みます芸人 もっこすファイヤー



14:45

パネルディスカッション

『「阿蘇」はなぜ世界文化遺産登録を目指すのか』

コーディネーター

(一社)全国草原再生ネットワーク代表理事 高橋 佳孝 氏



パネリスト

筑波大学名誉教授 稲葉 信子 氏
文化庁文化財調査官 鈴木 地平 氏
フリーアナウンサー 武田 真一 氏
(公財)阿蘇グリーンストック専務理事 増井 太樹 氏
熊本県知事 木村 敬



15:45

閉会

総合司会

読売テレビアナウンサー 佐藤 佳奈



阿蘇世界文化遺産登録推進関西シンポジウム

つながろう、伝えよう

阿蘇

自然との共生が創る
文化的景観

2026年

2/8 日

13:00▶15:55 (開場12:30)

コングレコンベンションセンター

〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 北館 B2F

世界遺産とは

1972年にユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づき「世界遺産一覧表」に記載されている「顕著な普遍的価値(Outstanding Universal Value: OUV)」をもつ人類共通の資産のこと。
総数1,248件、うち日本26件(2025年8月時点)

世界遺産の種類

- ①世界文化遺産…遺跡や建造物など「人類が作り上げた」遺産(例:富士山)
- ②世界自然遺産…地球の歴史や動植物など「自然が作り上げた」遺産(例:屋久島)
- ③世界複合遺産…世界文化遺産・世界自然遺産の両方の条件に該当する遺産(例:マチュピチュ)

世界遺産になるための条件

- ①顕著な普遍的価値の評価基準を1つ以上満たすこと
 - ②保護のための体制が整備されていること
- 以上の条件を満たし、暫定一覧表に入ったうえで国から推薦され、ユネスコ世界遺産委員会で決議されると登録されます。

暫定一覧表とは?

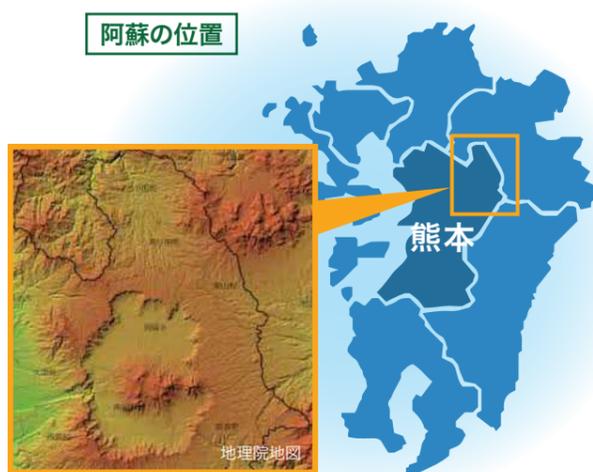
世界遺産条約を締結した各国が作成しており、今後世界遺産登録を目指す資産について、ユネスコに事前提出するリストのこと。
「阿蘇」は今、暫定一覧表入りを目指しています。

「阿蘇」を世界文化遺産へ

「阿蘇の文化的景観—カルデラ火山に展開する農業パノラマ」(以下「阿蘇」という。)に展開する、草地-森林-居住地-農地という土地利用と伝統的な生業のサイクルは、活火山を有する世界最大級のカルデラ※という特異な環境のもとに定住した人々と自然との共生のあり方を示す、世界でも貴重な土地利用の見本です。また日本の他の地域では、草地が激減する中、阿蘇では伝統的な農業システムが今も展開しています。

この景観を「人類共通の資産(たから)」として、適切に保全し、未来へ引き継いでいけるよう、熊本県と阿蘇郡市7市町村では、「阿蘇」の世界文化遺産登録に向けた取り組みを進めています。

※カルデラとは火山の噴火によってできた円形またはそれに近い広くて大きな窪地のことです。



「阿蘇の文化的景観」

阿蘇は、九州のほぼ中心部に位置し、南北約25km、東西約18kmの規模を誇るカルデラを有しています。

阿蘇カルデラは、約27万年前に始まった火山活動から、約9万年前までに4回の大規模な噴火を繰り返したことで形成されました。カルデラ内を中心に、阿蘇郡市7市町村には約5万人が居住しています。

「阿蘇の文化的景観」とは、世界最大級の規模と明瞭な円形陥没地形を備える迫力ある景観の火山カルデラのもとで、その地形条件を有効に利用しながら、草地に特徴のある伝統的農業を維持し、高い生産性をあげてきた人々の努力が作り上げた文化的景観のことです。



阿蘇カルデラの地形



「阿蘇」の顕著な普遍的価値を伝えるもの

01

明瞭な円形陥没地形を残す
世界最大級規模のカルデラ地形

中央火口丘、外輪山上、カルデラ壁、カルデラ床から構成され、現在まで災害などで破壊されることなく、迫力あるカルデラ景観を維持しています。

02

カルデラ地形に展開される
草地-森林-居住地-農地の土地利用形態

カルデラの崖の最上部を草地、次に森林、微高地に居住地、平地に農地として土地利用を行い、特殊な土地の条件を克服する農業を続けてきました。

03

野焼き・放牧・採草といった
草地管理や水利用などの農業システム

草地を1000年以上にわたり維持し、豊富な湧水などに恩恵を受けた水利用の工夫とともに、農地開拓と収穫量の安定化を実現しました。

04

自然と人々の関わり由来する
伝説、祭祀、信仰、伝承の無形遺産と宗教関連施設

自然と人々の関わり由来する火山崇拝や農耕祭事などの伝説・祭祀・信仰・伝承は、地域社会において無形遺産及びその宗教関連施設として受け継がれています。

阿蘇の価値について動画でご覧いただけます



協議会公式サイト



協議会Instagram

